

ASIRU - アシル -

令和5年4月26日発行 第3号



学びに主体性をもたせる組織的な家庭学習の取組を

昨年度の学校教育指導訪問では、「プリントの宿題だと取り組めるけれど、ノートに取り組み自主学習では、取り組めない子どもの姿が見られる…」など、家庭学習への課題意識をもって取り組んでいる学校が多く見られました。

本号では、ある小学校の取組を例に、「主体的に学び続ける学習者を育てる」ことを目的とした家庭学習の好事例を紹介します。

A 小学校における家庭学習の取組（例）

A 小学校では、発達の段階に応じて、家庭学習で身に付けさせたい力を設定しています。

- STEP 1 自ら学ぶ意欲を高める
- STEP 2 課題を選ぶ判断力を育む
- STEP 3 課題を見付ける分析力を育む

全てのSTEPを通し
「学ぶよさ」を実感させていく



【学校として育てたい家庭学習の力】 自ら学習課題を見出し、学び続ける力

STEP 1 自ら学ぶ意欲を高める

どのような取組も、家庭学習として認めます。

1年生

家庭学習って
楽しいな！

10分 1ページ

- ・自分の好きなマンガの説明をする。
- ・自分の好きな絵を描く。
- ・なわ跳びを跳んだ回数を記録する。
- ・その日のうれしかったことを書く。
- など、自分の好きなことに取り組み、先生や保護者が認め、励ますことが大切です。

子どもと先生が相談して課題を決めます。

2年生

学校で勉強した
ことって楽しいな！

20分 1ページ

- ・算数で習ったことをお家の人に教えよう。
- ・国語で読んだお話をお家の人に教えよう。
- ・生活で育てているお花を本で調べよう。
- など、授業の内容を振り返りながら、子どもに課題を提示します。例え取組が稚拙なものであっても、認め、励ますことが大切です。

STEP 2 課題を選ぶ判断力を育む

学習との関連を意識して課題を提示します。

3年生

課題を決めるって
楽しいな！

30分 1ページ

- ・授業の学習課題を家庭学習の課題にする。
- ・授業の学習内容をお家の人に説明する。など、学習との関連を意識した課題を提示します。また、必要に応じて、自分の取り組みたい課題を決める日も設けることで、課題を決める楽しさを味わわせることができます。

複数の課題を提示し、選ばせます。

4年生

自分にはこの
課題がぴったりだな！

40分 2ページ

- ・授業の学習課題を家庭学習の課題にする。
- ・授業の学習内容をお家の人に説明する。など、学習との関連を意識した課題を複数提示するとともに、自分の学習状況を振り返らせ、課題を選択させます。また、日々の取組の成果や課題を認知させていく必要があります。

STEP 3 課題を見付ける分析力を育む

自分で課題を決めさせます。

5年生

この課題で
苦手を克服しよう！

50分 2ページ

- 課題を決めさせる際に、以下の点に留意します。
- ①その日の授業の学習状況を振り返らせる。
 - ②苦手と感じた学習や理解が不足していると感じた学習と、その理由を明確にさせる。
- また、取組への抵抗が生まれないように、自分の得意を伸ばす課題を決めさせる日も必要です。

自分の目標と照らし合わせて課題を決めさせます。

6年生

1週間で、ここ
までできるよう
にしよう！

60分 2ページ

- 課題を決めさせる際に、以下の点に留意します。
- ①自分の今までの学習状況を振り返らせる。
 - ②1週間の目標を決めさせる。
 - ③目標達成を意識して毎日の課題を決めさせる。
- 中学校進学に向けて、戦略的・攻略的に自分の学習を進めていく必要があります。

※家庭学習の取組例は、各学年でノートの見本を提示しています。

<義務教育指導班からのお知らせ>

家庭学習に係る参考資料として、「家庭でのICT 端末活用の実践事例×stuDX style」（文部科学省）、令和2年度小・中学校教育課程編成の手引（北海道教育委員会）がWeb ページに掲載されています。2枚目に資料の一部とQRコードを掲載しておりますので、御活用ください。



家庭でのICT端末活用の実践事例

×

StuDX Style



児童生徒の資質・能力を育成するにあたっては、学習指導要領の趣旨を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」という観点から学習活動の充実の方向性を改めて捉え直し、これまで培われてきた工夫とともに、ICTの新たな可能性を指導に生かすことで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげていくことが重要です。

そして、「学習の個性化」という側面からも、ICTの活用も含め児童生徒が主体的に学習を進められるよう、それぞれの児童生徒が自分にふさわしい学習方法を自己調整するような態度を育てることが大切です。

また、ICT端末を活用して、自宅等で学習を日常的に行うことは、家庭学習の質を高めるだけでなく、自立した学習者を育成する上でも必要です。

そこで、関連するStuDX Style掲載事例を整理しましたので、各校の取組の状況にあわせてご活用ください。

家庭で端末を活用する上で、学校と保護者等との間で確認・共有しておくことが望ましいポイント

1-④

はじめてのパスワード指導

1-⑨

家庭でのICT端末の使い方を考えよう

1-⑩

家庭と連携した児童生徒の健康への配慮

【例】

- 端末を使用する際に良い姿勢を仮し、机と椅子の高さを正しく合わせて、目と端末の前面との距離を30cm以上離す
- 就寝1時間前からICT機器の利用を控える

【参考】児童生徒の健康に留意してICTを活用するためのガイドブック（令和4年3月改訂版）

家庭学習に使える活用事例

2-①

家庭学習カードのオンライン化

2-②

ノートのデジタル化で、即時フィードバック

1-⑧

デジタルドリル

1-⑭

見つけたものを撮影して紹介しよう

ちょっとした工夫で家庭学習に使える活用事例

3-①

授業の導入でひ形学習カード配信

家庭学習用ワークシートを配信して、端末を使って調べたり、まとめたりする。自宅にいながら、友達と協力して課題に取り組むことも可能。

3-②

付箋操作のオンライン化

課題について、オンライン上のデジタルホワイトボードに個人の考えを記入する。授業中に協働学習をするための準備としても活用できる。

ここに掲載されている事例は一例であり、それぞれの学校の実態、児童生徒の発達段階に合わせて工夫してください。
文部科学省 StuDX Styleウェブサイト <https://www.mext.go.jp/studxstyle/> (令和4年8月)

※画像をクリックするとPDF版が開きます。

[家庭でのICT端末活用の実践事例×StuDX Style \(PDF: 712KB\)](#)

<参考資料> 令和2年度小・中学校教育課程編成の手引 (北海道教育委員会)

〔視点5〕 学びに主体性をもたせる家庭学習

1 家庭学習の習慣化について、学校全体で組織的に取り組む。

◆ 主体的な学習者の育成

全ての生徒に育成を目指す資質・能力を確実に育んでいくためには、主体的に学び続ける学習者を育てる観点から、学校における学習指導の充実とともに、家庭学習の習慣化に取り組むことが重要です。

家庭学習の習慣化は、生活習慣の改善と大きな関わりがあり、スマートフォンやゲームの使用時間の増加が、家庭での学習時間の確保に影響を及ぼしていると考えられることから、「家庭での学習習慣の確立」と「生活習慣の改善」を併せた取組が大切です。

◆ 家庭学習の方針の共通理解、優良事例の共有

家庭学習の習慣化に当たっては、家庭学習の内容や量など、発達の段階に応じた家庭学習の方針について全教職員で共通理解を図るとともに、効果的な指導や評価について、教職員間で話し合う機会を設定し、優良事例を共有することが重要です。

【POINT】

- ・廊下や玄関ホールに家庭学習ノートを掲示するなど、学年や学級の取組を可視化し、優良事例を共有します。
- ・中学校区で家庭学習強化週間を実施するなど、地域全体で取り組むことにより、保護者の理解と協力を得られやすくなります。

